カリキュラムマップ（生活環境学科）

生活環境学科のカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1. 生活環境に関わる諸問題を、学際的かつ実践的に学ぶ。
2. 多岐にわたる学習内容を環境や健康に配慮したライフスタイルの創造という具体的な目標に向けて集約する。
3. はじめに、全教員がオムニバスで担当する入門科目によって、学科の理念、目標、学習内容の概要の周知を図る。
4. 基礎科目と専門的科目を体系的に編成するとともに、専門の異なる複数の教員で担当する学際的科目と資格取得を視野に入れた科目を設ける。
5. 1 年次では、基礎演習として、大学での基本的な学びの方法、2 年次では、より専門的な知の技法・研究手法を学ぶとともに、生活環境学の基礎領域を幅広く学修することによって視野をひろげ、専門教育に備える。
6. さらに、講義だけでなく、実験・実習、フィールドワーク、臨地研修等、体験型学習を併用することによって、知識の深化・体得を図るとともに、実践的技能を身につける。
7. 専門科目およびゼミは、環境や健康に配慮したライフスタイルの創造に向けて、各分野の視点から、より深い専門的知識・技能の習得を図る。
8. 4 年次には、習得した知識・技能をもとに学生が主体的に選んだテーマによる卒業研究に取り組み、学びの集大成とする。

生活環境学科のディプロマポリシー（学位授与の方針）

1. 知識・理解
(1) 暮らしの基本である衣・食・住を中心に、心身の健康を促進するスポーツ・レクリエーション、自然との共生や経済問題、社会環境など、多様な観点から生活をより良くするための知識と理論を理解している。
(2) 暮らしを豊かにする伝統的な生活文化と技術について学び、それらを科学的に理解することができる。
2. 汎用的技能
(1) 実験・実習・ものづくり・フィールドワークなど実践をとおして、生活をより良くする感性と技術を身につけている。
(2) 生活をより良くするという観点から、生活を取り巻く種々の問題に常に関心をもち、その問題について論理的に分析し、具体的な解決策へ結びつけることができる。
(3) 適切な情報発信やプレゼンテーションスキルなど、問題解決に向けて主体的に行動する方法を身につけている。
3. 態度・志向性
(1) 移り変わる新しい生活の情報を収集し、時代とライフステージに対応した知識、技能を得ようとする態度を身につけている。
(2) 様々なイベントやボランティア活動などを経験し、主体的に活動しようとする態度を有している。
(3) 地域・企業との産官学連携活動という協働的な学びを経験し、対人コミュニケーションを図ろうとする態度を身につけている。
(4) 興味のある専門領域の資格取得に向け、高い意欲をもち継続的に学ぶ態度を有している。
4. 統合的な学習経験と創造的思考力
(1) 多岐にわたる学習内容を自分自身のより良い「ライフスタイルの創造」に向けて、環境や健康に配慮し実践することができる。
(2) 持続可能な社会の実現に向けて様々な領域で活躍することができる。

生活環境学科カリキュラム								カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目　○ 重要な項目　△ 履修することが望ましい項目			
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 （○印は必修）	配当年次	開講区分	レベル （低1～4高）	アクティブラーニング※の実施について （具体的にお書きください）	知識・理解 （基礎力）	汎用的技能 （思考力・実践力）	態度・志向性 （思考力・実践力）	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
生活環境学入門	衣環境、食生活、住生活、スポーツ、レクリエーション、暮らしの経済、自然とのかかわり、環境に配慮した暮らしなど、生活環境を多面的かつ具体的に知るとともに理解することを目的とする。|・授業の連絡：CampusSquareの掲示板|・授業内容・課題：Moodle(学習支援システム)に掲載|※第1回授業は，Teams(ライブ)で実施する.	私たちに身近な生活環境の問題について、自身の意見を自分自身の言葉で説明できる。賢くおしゃれに暮らす女子力を習得する。	2　○	1	前期	1	ー	◎	△	○	
生活環境学基礎演習Ⅰ	大学における学び方の姿勢や学習技法の習得を目指すための授業です。まず ノートの取り方や図解の方法、レポートの書き方、レジュメの書き方などを習得することを目的とします。さらに、普段の生活に目を向けて、生活環境における問題を発見していきます。|※第1回授業は，Teamsで実施する.	大学における学び方の姿勢や学習技法の習得を目指すための授業です。「課題を見つける、情報を収集する、図で考える方法を身につける、レジュメを作成することができる、文章作法を学ぶ、与えられた課題に対してレポートとしてまとめることができる」という流れを体験し必要な技術を身につけます。	2　○	1	前期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	○	◎	△	
生活環境学基礎演習Ⅱ	大学における学び方の姿勢や学習技法の習得を目指すための授業です。前期での演習を発展させ、「問い」を見出し、「根拠」を調べて、「結論」に結び付け、全体をまとめレポートを作成する、という流れを体験するとともに、必要な技術を身に付けます。	・問いをたてることができる|・根拠を自分で調べることができる|・根拠をもとに結論を考えることができる|・問い，根拠，結論を論理的に構成し，レポートとしてまとめられる|・レポートの内容をわかりやすく発表できる|・グループでの学び合いをできる	2　○	1	後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	○	◎	△	
生活環境学総論	生活環境学は、衣・食・住を柱に、文系、理系といった枠組みを超えた、生活者の視点から物事をとらえようとする学問である。この授業によって、生活環境学としてどのようなことを学ぶのか、その具体的内容について知るとともに、生活のさまざまな領域に関心を広げることができる。|また、環境に配慮しながら賢い暮らしを構築していくために必要な基本知識や方法、暮らしに登場しつつある新しい技術の動向も学ぶことができる。|授業では日常生活から具体的にイメージできることが多く含まれる。|なお、社会の変化などにより、テーマを変更することや、順序を入れ替えることがある。|毎回、課題を出し、それへの回答をレポートの評価対象とする。	・生活環境学がどのような学問であるのかを理解することができる。|・豊かな生活を実現するためには、生活の中における知識が必要なことが理解できる。|・生活の中で、どのような視点を持って暮らせばいいのかを考えることができるようになる。|・現在の生活環境を取り巻く問題点や新しい出来事などが理解できる。|・今後の専門分野を選択する際の基礎知識が得られる。|・暮らしに登場しつつある新しい技術の動向を知ることができる。|	2　○	2	前期	2	ー	◎	○	△	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
生活環境学基礎演習Ⅲ	本授業では、生活環境にかかわるさまざまな課題を解き明かすための手法としての|フィールドワーク(観察・聞き取り), 質問紙調査, 情報処理の基礎的な考え方や方法を習得するとともに, 科学的なものの見方を身につけることを目的とする。| また, 1年次からの読書の取り組みについても継続して実施する。|	・フィールドワークの基本的な概念および具体的な手法を理解する。さらに、フィールドワークから得られた結果を分析することができる。|・観察および聞き取り調査を実施するとともに, 結果の取りまとめをすることができる.|・質問紙調査の意義と限界を知る。調査方法の種類、質問・回答文の作り方、調査手順、分析方法等を学ぶ。目的に適した調査方法を選択できるようになる。|・データの入力, 集計, グラフ作成など基本的な情報処理ができるようになる。|・読書習慣を定着させる。	2 ○	2	後期	2	発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	○	◎		△
生活環境学演習Ⅰ	「経済」をキーワードとするテーマを各自が設定し、毎週プレゼンテーション及びディスカッションを行うことで、経済の知識を身に付けます。	1.暮らしの中の様々な問題について、幅広い知識を持つようになる。|2.自分の頭で考え、その解決策を提案できるようになる。|	2 ○	3	前期	3	発見学習、問 題解決学習、体験学習、調 査学習、グループ・ディス カッション、ディベート、グ ループワーク、プレゼンテー ション		○	◎	△
生活環境学演習Ⅱ	次年度の卒業研究に向けて, 研究計画を策定する. さらに, 予備調査を行い, 研究計画の妥当性を検討・修正する. |#ICT	・研究計画を策定することができる|・予備調査を行うことができる|・研究計画の妥当性を検討・修正することができる	2 ○	3	後期	3	発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション		○	◎	△
卒業研究Ⅰ	各自が個別のテーマ設定をし、卒業研究の作成を行う。	大学4年間の集大成としての卒業論文の完成に向けて、中間報告を行えること。	4 ○	4	前期	4	問題解決学習、調査学習、プレゼンテーション		○	◎	◎
卒業研究Ⅱ	卒業研究論文の執筆を通して, 研究することの意義を深く理解するとともに, 文章のまとめ方, プレゼンテーション能力を身につける. また, 課題を解決する能力・議論する能力を身につける. |#ICT	・各自の課題を解決する方法を身につける|・文章のまとめ方を身につける|・理解しやすいプレゼンテーションをすることができる|・目的にあった調査・解析・取りまとめ・文章表現ができる|・議論を深めることができる|・教員と学生ともに満足できる卒業論文を書くことができる	4 ○	4	後期	4	問題解決学習、調査学習、プレゼンテーション		○	◎	◎
女性健康マネジメント論	女性の生涯において、健康にまつわるリスクは多様である。本授業は、校訓の「強く」を実践していくためにリスクを提示しながら、健康におけるマネジメントの重要性を理解することを目的とする。	女性の生涯において、おこりうる可能性のある健康リスクを予防、あるいはできるだけ最小限に抑えるために役立つ基礎知識を身につけることができる。授業受講前の自分と最終講義15回目を終えた時の自分を比較したとき、健康に関する自身の意識が変化したことを自覚できる。	2	1～	後期	1	－	◎	△	○	
健康栄養学	食と健康に関する情報の真偽や有効性を的確に評価し、より良い情報を選択するために必要な、栄養と健康に関する基礎的知識の修得を目的とする。||※この授業は、オンライン授業のため、|第1回より、学習支援システム(Moodle)を使用して説明資料(動画やプリント)の提示、課題の提出を行う。授業に関する連絡があれば、CampusSquareの掲示板で行う。||	・生体の仕組みの概要を理解し、説明できる。|・栄養素や食生活に関する基本的な知識を身につけ、健康の維持・増進に活用することができる。|・生活習慣病や健康寿命に関わる各種疾患と食事との関連について理解し、説明できる。|・フードスペシャリストに必要な栄養と健康に関する知識を修得し、説明できる。|	2	2～	前期	1	－	◎	○	△	
生涯スポーツ論	誰でもが生涯にわたってスポーツを実施することができる社会をめざして、生涯スポーツの必要性、理念や役割を知り、個々の生活(個人・家族・地域社会)においてスポーツとどのようにかかわることができるかを考える。|| 学習支援システム(Moodle)を使用して説明資料の提示、課題の提出を行う。| また、授業に関する連絡はCampusSquareの掲示板で行う。|	生涯スポーツの必要性を自覚し、各自ができる範囲でスポーツとかかわることができる。	2	1～	前期	1	実生活の運動や栄養状態を数値化して振り返り、その課題を考えている。	◎	△	○	
トレーニング論	健康で豊かな生活を送るために、生涯にわたって定期的に運動・スポーツを実践する必要性が求められている。トレーニングをはじめとする運動やスポーツについて、実施する意義・必要性・便益や実施の方法論について学ぶ。生理学だけでなく、社会環境も含めた社会学、心理学等の幅広い観点から理解を深める。	トレーニングに関する基礎的な知識を身につける。自分の生活の中にトレーニングをはじめとする運動やスポーツを取り入れていくために必要な知識をつけることを目的とする。	2	2～	前期	1	－	◎	△	○	
レクリエーション論	レクリエーションについての考え方を知り、日常生活とレクリエーションとの関係を探り、個々の生活にどのように取り入れていくことができるか考える。	レクリエーションについての理念や役割を知り, 個々の生活(個人・家族・地域社会)においてどのように取り組み、支援できるかを提示することができる。||| 学習支援システム(Moodle)を使用して説明資料の提示、課題の提出を行う。||	2	2～	後期	2	一部グループワークを取り入れ、生活の中のレクリエーション場面を考察している。	◎	△	○	
レクリエーション実技A	レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な基礎的内容を学ぶ。「目的志向型集団レクリエーション」を柱にして、多様なレクリエーション活動・種目を体験し、それを支援・評価する方法を学ぶ。	それぞれの実技の意味を理解し、集団支援の基本的な活動ができる。実技指導場面で評価する観点がわかる。|	1	3～	前期	2	グループワー ク、グループディスカッション	○	◎	△	
レクリエーション実技B	レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な基礎的内容を学ぶ。「目的志向型集団レクリエーション」を柱にして、多様なレクリエーション活動・種目を体験し、それを支援・評価する方法を学ぶ。	それぞれの実技の意味を理解し、集団支援の基本的な活動ができる。実技指導場面で評価する観点がわかる。|	1	3～	後期	3	グループディスカッション、リーダー体験学習などを取り入れている。	○	△	◎	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
居住環境論	日本の住まいと住環境のかかわりについて、自然環境と社会的環境の両面から概説する|授業は学習支援システム(moodle)を利用する|	住まいと自然環境の関わりを学び、自然と共存しながら快適な暮らしを得るためにどのように工夫するべきかを考える また、社会環境と住まいの関わりを学び、これからの住まいに求められる機能がどのように変化し、住まいがどうあるべきかを考える□	2	1～	後期	1	-	◎	○	△	
住生活デザイン論	日本の住まいと住様式の特徴や、その相互関係を理解し、これからの暮らしにふさわしい住様式について考える□授業は学習支援システム(moodle)を利用する|	伝統的な暮らしの知恵を理解し、これからの暮らしにふさわしい住まい・住様式を想像する知識と意欲を持つ□	2	2～	前期	2	-	○	◎	△	
ハウジング論	住まいと住生活に関する理解を深め、生活者と専門家双方にとって必要な知識の基礎を身につける|授業は学習支援システム(moodle)を利用する|	消費者として住宅を借りる・買う、専門家として住宅の計画・研究を行うための基本的な知識が身につく□	2	1～	前期	1	-	◎	○	△	
ハウジングデザイン実習	卒業研究において、制作的な要素を取り入れることでテーマ選択の幅を広げることができるように、設計製図の基礎を手描きによって身につけること、住宅の間取りを考え作成することが本授業の目的である。また、手描き図面の作成方法を学ぶことによって、将来的に、インテリアコーディネーターの受験を希望する場合にも役立てる。|講義科目の学習内容を踏まえ、実習形式によって二次元の図面に表現する力を養う。|授業方法としては、対面実習を基本とし、Campus Square と Moodleを使用して行います。	木造住宅の特徴を知り、テーマに応じた間取りを考えて、フリーハンドで描くことができる。|製図用具を用いて、木造戸建て住宅の平面図、配置図等を作成できる。|平面図上に、スケールを意識した家具の配置計画をおこなうことができる。|	1	2～	前期	2	課題作品のプレゼンテーション	○	◎	△	
住居史	住居や建築と人々の関りを、歴史の流れとともに解説することにより、現在の居住環境やこれからの住まいにおける方向性を考える|授業は学習支援システム(moodle)を利用する|	日本と世界のの伝統的な建築・空間特性を理解するとともに、それらがどのように変遷してきたのかについて理解する。またそのことにより、これからの住宅に何が求められるのかついて考える意欲と知識を得る。□	2	3～	前期	3	-		△	◎	○
インテリアデザイン	住まい方の多様性が求められる社会状況等からインテリアデザインの果たす役割は重要となっている。そして、優れた建築には優れたインテリアが存在するように、それらはお互いに強く結びついており、そこに設置される家具、什器、備品、照明、インテリアオーナメントは重要なエレメントになっている。そこで、本授業では、インテリアをデザインするための基礎知識を能動的に取り組むことによって学び、最終的に小規模インテリア空間をデザインする。また、各授業においては課題レポートを提出すること。|授業はMoodle（学習支援システム）を使用する。|	建築空間とインテリア空間の関係性について理解できる。|インテリアを構成するエレメント、材料、家具、什器、備品、照明、インテリアオーナメントについて理解できる。|インテリア空間をコーディネート及びデザインすることができる。|	2	1～	後期	2	－	○	◎	△	
インテリアコーディネート論	インテリアコーディネーターの資格が制定されて以降、住宅産業界等でそのニーズは高まっている。それらの社会状況を踏まえ、インテリアをコーディネートするための専門知識を身に付け、インテリアコーディネーター資格試験（1次試験）に対応した授業とする。また、毎回授業の内容をまとめたレポートを提出すること。授業の方法は、Moodle（学習支援システム）を使用する。|	インテリアコーディネーターの仕事について理解できる。|インテリアの歴史について理解できる。|インテリアコーディネーションの計画について理解できる。|インテリアのエレメントについて理解できる。|インテリアの構造・構法・仕上げについて理解できる。|インテリアの環境・設備について理解できる。|インテリアコーディネーションの表現について理解できる。|インテリアの関連法規・規格・制度について理解できる。||	2	3～	前期	2	－	△	◎	○	
インテリアコーディネート実習	インテリアコーディネート論で学んだことを参考にし、インテリアコーディネーター資格試験（2次試験）に対応した実習とする。また、作成した図面、室内パース、設計主旨を各自ポートフォリオにまとめることを目的とする。	インテリアデザインに必要な図面を作成することができる。|室内パース等を描くことができる。|ポートフォリオを作成することができる。	1	3～	後期	3	課題作品のプ レゼンテーション		◎	△	○
カラーコーディネート論	あふれる色彩を上手に取り入れることにより、まさに生活が豊かにいろどられる。「色」を感覚的に捉えるだけでなく、理論に裏付けられた「色」を操ることができるよう、色彩科学の基礎を理解する。AFT色彩検定2・3級を取得できる知識を得る。|これらの資格取得をサポートする授業であるため、本気で取得を目指す学生の受講が望ましい。||主としてMoodleを使用したオンライン授業を行います。||#女性 #SDGs	・「色」を客観的に数値で表すことができる。|・配色の基本を理解する。|・習得した知識を、日常に活かし、色彩を楽しむことができる。|・色彩検定2・3級の内容を身につける。	2	1～	後期	1	－	◎	○	△	
カラーコーディネート実習	似合う色の根拠を把握し、目的に応じた色の演出効果を理解する。|色彩技能パーソナルカラー検定®モジュール1・モジュール2（パーソナルカラーアシスタントアドバイザー）を取得できる技能と知識を得る。||#女性 #SDGs	パーソナルカラーの基礎理論【色の属性（性質）の違いにより顔の見え方は理論的(客観的)に変化する】について理解する。日本パーソナルカラー協会・アシスタントアドバイザーの資格取得をすることで、客観的な根拠に基づき、固有感情（属性の反応による色白効果、血色効果、小顔効果、つや出し効果）を実践する力を身につける。	1	2～	前期	2	－	△	◎	○	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
衣生活デザイン論	生活の基本である衣生活について、生産、消費、社会環境など多様な観点から衣服を見直し、衣生活をより良くするための知識を身につける。|また、衣生活の基礎領域を幅広く学ぶことによって、生活環境に関する視野をひろげるとともに専門教育に備えることを目的とする。|第1回目から第10回目までは、現代社会における衣環境の諸問題や衣服の基本的な取り扱いについて学ぶ。|第11回目から15回目は、衣服を着装する人体体型について学ぶ。|#女性 #SDGs	オシャレやファッション以外の観点から衣服を説明することができる。|衣生活をより豊かにするための課題を見つけることができる。|体型の違いを知ることで、自分にあった着心地の良い衣服を選ぶことができる。	2	2～	前期	2	3時間程度、和服、洋服の構成を理解させるための演習を行う	◎	○		△
アパレル素材論	私たちは衣服を選ぶ際、色柄、形などのデザイン面は意識するが、素材(材料)についてはあまり意識しない。しかし、実は素材(材料)によって着心地や取り扱い方が大きく異なる。そこで、素材を知る必要性を理解するとともに、様々な繊維素材の特性を知り、取り扱いや管理について正しく判断できる知識を身につける。|これにより、生活環境を形成する衣服をはじめとする身の回りのモノの素材に関する基本的知識を身に着けることを目的とする。|#女性	衣製品について素材(材料)を意識する習慣が身に着く。|一般的なアパレル素材の特徴や取り扱いを説明できる。	2	2～	後期	2	－	◎	○	△	
ファッション論	ファッツションは人間と社会、文化との関係によって生まれる。この授業では、古代から現代まで、どのように人が衣服を装い、社会で受容されてきたのか、さまざな事例を紹介する。デザインの創造性や目的、産業としてのファッションの特色など、多角度から衣服の観察を行い、ファッションについての多面的な見方と考察力を身につける。|	西欧における服飾の変遷を中心に、人間とファッションと時代背景の関連を理解する。||	2	3～	前期	2	－	◎	○	△	
服飾文化論	人間は衣服を着ることが当たり前になってから、様々な形や色、文様や材質の衣服を作り出し、今もなお新しい衣服を作り続けているが、人間はどこまで衣服を追い求めるのか。|このような疑問に対して、衣服を美術やデザイン、地域などの”文化”や”伝統”と結びつけながら考えてみることにより、日本の伝統的な生活文化を尊重しながら、現代社会における豊かな衣生活を確立できる感性を身につけることを目的とする。	・服飾の本質的なことを説明できる。|・服飾の文化について古来と現代の違いを説明できる。	2	2～	前期	1	－	◎	○	△	
服飾デザイン論	服飾デザインは、ファッションを目的としたデザインだけでなく、身体の保護や快適性など様々な観点から考えていく必要がある。|そこで、前半は主に素材に対するデザインの手法を学び、後半はアパレルデザインを企画・造形する過程を体験する。|これにより、専門教育に向けて専門的な知識を身に着けることを目的とする。	・衣服についてどのような方法でデザインされているかを説明することができる。|・デザインを考えるために必要な情報収取の方法を身に着ける。	2	2～	後期	2	－	△	◎	○	
服飾デザイン実習	「服飾デザイン論」の内容について、実際に体験することによって、服飾デザインに関する知識の深化・体得を図るとともに、実践的技能を身につけることを目的とする。|前半は主に染色について実習を行い、布に色や柄を付与する原理や手法について体得する。また環境配慮の観点から天然染料による染色について体験する。|(※染色実習は衣服が汚れる可能性があるので、白衣やエプロンなどを準備すること)|後半は衣服製作を通してデザインやパターン製図、また、用途に適した布地の選択や縫製加工について理解する。後半は、ドレーピング(立体裁断;直接生地を沿わせることで&衣服をデザインする)について&生地の特性と身体の形状を把握し、基本技術を取得できる技能と知識を得る。|#SDGs #女性	「服飾デザイン論」の基礎知識や技術を基に、デザインイメージにあった素材を自由に創る工程を修得する。また、ドレーピングの基礎の技術を修得する。人体の運動量とバランスの関係を理解し&素材を選択できる知識を身に着ける。パターンメーキングに繋げられるようにする。コーディネートを実践する力を身につける。	1	3～	前期	3	－	△	○	◎
食生活デザイン論	・食を取り巻く環境の変化を踏まえ、SGDsについて検討する。 ・心身の健康をはかる上で、特に女性として自分自身の「食生活」の重要性を理解する。	(1)食生活の概念を理解することができる。 (2)世界の食文化を理解し、興味をもつことができる。 (3)日本の食文化を理解し、「和食」の良さを見直すことができる。 (4)食の視点からSDGsを考えることができる。 (5)女性としての食生活の重要性を理解することができる。 (6)望ましい食生活のあり方についてライフステージ別に考察し、食育に対して積極的に検討することができる。	2	1～	後期	1	－	◎	○	△	○
フードコーディネート論	総合的に食のコーディネートについて学習し、フードコーディネートが食生活に果たしている役割と価値について理解する。さらに女性らしい感性を身に付け、具体的な実践(個人の創作)に生かす。これらの学習を通してフードコーディネートへの理解を深めることを目的とする。	五感を働かせて食空間を演出する感性を磨き、より豊かな食生活を実践することができる。	2	2～	前期	2	グループワー ク(後半にメニュープランニング、コーディネートを理解させるための演習を行う)	○	◎	△	◎
調理学	食べ物のおいしさは、心と身体の健康にとって重要な意味をもつ。食品の特性と調理による変化、調理操作、調理機器について、科学的な視点から学び、おいしさを作り出すための調理法を理解できるようになることを目的とする。	(1)食品の特性と調理による変化を理解し、実際の調理に応用・展開することができる。 (2)食べ物と健康との関係を理解し、健康的な食生活を送ることができる。	2	2～	後期	2	－	◎	○	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
食品加工実習	我々が日常食べている食品の多くは加工食品であ る。暮らしを豊かにするという点で、加工食品は我々 の食生活に必須のものとなっている。本講義では、 加工食品がどのように開発され、市場に出てくるかに ついて知り、食品開発を理解できるようになることを 目的とする。	・食品開発の一連の流れを説明できる。・地域資源を活用した食品開発を説明で きる。・環境と健康に配慮した食品開発を説明 できる。	1	3～	前期	3	グループワーク(グループで実習)		△	◎	○
食品開発実習	第一線で活躍している現役のシェフ・パティシエから調理の応用力を習得し、消費者の視点に立った食品開発の企画・開発に取り組むことを目的とする。	食品開発への意欲や地域食品産業への関心を高め、環境や健康に配慮した魅力ある食品開発に主体的に取り組むことができる。	1	3～	後期	3	グループワーク(グループで実習)		△	○	◎
製菓実習	身体に優しい洋菓子の製法技術を学び、食生活を豊かにするための実践力を身につけることを目的とする。	材料、器具の扱い方を身につけ、製菓について理論的に捉えることができるようになる。自ら菓子が作れるように技術を修得することができる。	1	2～	後期	2	グループワーク(グループで実習)		△	○	◎
ユニバーサルデザイン論	年齢や障害の有無にかかわらず，最初からできるだけ多くの人が利用可能であることを目指すユニバーサルデザインについて，その意義や歴史、デザインを進めるにあたっての原則などを理解する．生活環境の様々な分野やライフステージにおいて，安全で心豊かに過ごせるようなユニバーサルデザインがあることを知り，自身の生活との関連や今後のあり方を考察する．|・授業の連絡：CampusSquareの掲示板|・授業内容・課題：Moodle(学習支援システム)に掲載|#SDGs|	ユニバーサルデザインの理念を理解し、身の回りの物や環境のデザインに興味を持っことができる．また，よりよいユニバーサルデザインに向けて積極的に取り組む態度をもち，自分自身の意見や考えを述べることができる．	2	2～	後期	2	－	◎	△	○	
暮らしと環境	環境や環境問題とは何かを理解したうえで，日常生活で環境から受けている恩恵(生態系サービス)や地球環境問題の個別事項を考える．環境を保全する意味や環境倫理の課題についても考える．|授業内容によって，Moodle(学習支援システム)上でグループ討論を行い，その内容をまとめる．|・授業の連絡：CampusSquareの掲示板|・授業内容・課題：Moodle(学習支援システム)に掲載|#SDGs	・環境からの恩恵を理解する|・地球環境問題の個別事項を理解する|・環境問題について自分の意見を述べることができる	2	1～	後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎	△	○	
環境アメニティ論	生活を豊かにしている自然環境について人間との関わり方を説明する．日常生活で活用するものや，都市の自然や植物，自然を使用する際の注意点を解説する．特に生活との繋がりや身近な地域に関することを重視する．また，自然環境の保全についても事例を交えて説明する．授業内容によっては，グループ討論を行うとともに発表をする．|・授業の連絡：CampusSquareの掲示板|・授業内容・課題：Moodle(学習支援システム)に掲載|※第1回授業は，Moodleに掲示する(CampusSquareの掲示板で連絡)．|#SDGs	・生活を豊かにしている自然や植物について理解する|・生活の中での植物の使い方について理解する|・自然環境との関わり方やその保全について説明できる	2	2～	前期	2	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	○	◎	○	
現代環境論	持続可能性を目指すSDGsが国際的な目標となる中、私たちの暮らしも環境との関係やバランスを考えながら組み立てることが必要になっている。本講義では、近年の環境問題の原因と影響について考察し、それらと生活環境との関係が理解できるようになることを目的とする。|例えば、地産地消がなぜCO2排出量の削減と関係があるのか、使い捨て型のライフスタイルが環境にどのような影響を与えているのか、未来型住宅として注目を浴びているスマートハウスとはどんな家なのかなど、食生活、ごみの排出、日々のエネルギー利用と環境との関係、水の循環等について具体的に学び、日常生活の選択や工夫に生かすことのできる知識を身につける。また、最近、増加している自然災害への対応策やSDGsについて、現状や今後の方向について、事例を中心に考察する。|	人間活動が環境に及ぼす影響についての知識を増やし、地域でどのような対策が実施されいるかを学ぶことによって、日々の暮らしの中で環境に配慮しながら暮らす工夫と選択ができるようにする。特に、ライフスタイルが自然や社会全体に直接影響を与えることが多くなっている現在、自らの選択や行動が環境にどのような影響を与えるのかを理解した上で行動できるようにし、自分なりの知識と価値観に基づいてライフスタイルを構築できるようにする。| CampusSquare および学習支援システム(Moodle)を使用する予定。	2	1～	後期	2		◎	○	△	
循環型社会論	日本では「循環型社会形成推進基本法」という法律を制定し、それまでの大量生産、大量消費、大量廃棄型社会から循環型社会への転換を図ってきた。その結果、多くの使用済みの製品がリサイクルされるようになっている。例えば、私たちの身の回りでは、ペットボトル、紙パック等の容器類、テレビ、冷蔵庫等の家電製品、最近では携帯電話やデジカメまでリサイクルされるようになっている。また、最近ではインターネットの普及により、シェアリングなど、所有の仕方や価値観に急激な変化が見られる。本講義では、なぜ、循環型社会に転換していく必要があったのか、それを実行するためにどのような制度やしくみがつくられたのか、現状ではどのような成果と問題点があるのかを理解できるようにする。また、シェアリングエコノミーやサーキュラーエコノミーなど、新たな経済のしくみや社会の変化についても学ぶ。	循環型社会を構築していくことの必要性と、現状における成果と問題点を理解し、各種リサイクル関連法によって日常生活がどのように変化しているのかについての知識を深める。そして、循環型社会を実現するために生活者としてどのような工夫と協力が必要なのかを考えられるようにする。シェアリングエコノミーやサーキュラーエコノミーなど、新たな経済のしくみや社会の変化の意味を理解し、対応できるようにする。| CampusSquare および学習支援システム(Moodle)を使用する予定。	2	2～	後期	2		○	◎	△	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
生活法学	国際化、少子・高齢化、高度情報化などの進展で激変する社会の影響を受けて様々な消費者問題が発生している。安全で安心な消費生活を確保するため、法的知識を習得すると共に自らの消費行動が経済社会情勢や地球環境に影響を及ぼすことを理解し、公正かつ持続可能な社会の形成に向けて責任ある行動が取れるよう学習する。	学生が消費者トラブルに遭わないよう自らを守る消費者の権利・法律を学ぶと共に自らの消費行動が社会や地球環境に影響を及ぼすことを理解し、責任ある行動が取れる態度を培う。	2	1～	後期	1	－	◎	○	△	
生活経済学	日々の生活は経済と大きな関わりがあります。身近な問題を通して、その背後にある経済の仕組み、経済学的な考え方を学びます。ミクロ的な見方だけでなく、マクロ的な見方も出来るようになることを目標とします。	暮らしの中にある経済問題に対して問題意識を持てるようになります。	2	1～	後期	1	－	◎	○	△	
ファイナンス論	これからの人生を設計するうえで、ライフプランニング、金融商品、保険、投資、税金などの金融に関する知識は不可欠なものです。生活者として身に付けておくべき「パーソナル・ファイナンス」の基礎的な知識の修得を目指します。。|	・生活者に必要なパーソナルファイナンスの知識を身に付けることができます。|・金融に関する新聞やニュースが理解できるようになります。|	2	2～	前期	2	－	◎	○	△	
社会保障論	20歳になると、国民年金保険料を支払う事になります。しかし、何のために払っているのかよく理解していなかったり、年金は貰えないのかもしれないという、ただ漠然とした不安を抱いていないでしょうか？そうした疑問を解決することを目的とします。|社会保障は、日常生活において不可欠な知識です。本講義では、ライフサイクルに合わせて、社会保障の中心である年金・医療・介護保険・労働保険などの知識を身に付けます。	社会保障の目的・理念や基本的考え方および個別社会保障制度の仕組みについて基礎的知識を修得したうえで、社会保障をめぐる問題解決の方向性をしめす政策論とトータルな社会保障制度の社会的基盤づくりの在り方ついて自分なりの意見を述べられるようになります。	2	3～	前期	2	－	◎	△	○	
生活環境学特別演習	これからの人生を設計するうえで、ライフプランニング、金融商品、保険、投資、税金などの金融に関する知識は不可欠なものです。生活者として身に付けておくべき「パーソナル・ファイナンス」の基礎的な知識の修得を目指し、ライフプランとマネープランの提案を目指します。||■前期の「ファイナンス論」の受講が望ましいです。|■2023年1月試験の受験を予定しています。手続きは各自、別途受験料がかかります。	・生活者に必要なパーソナルファイナンスを身に付けることができます。|・金融に関する新聞やニュースが理解できるようになります。|・自分のライフプランとマネープランを立てることができるようになります。|	2	3～	前期	3	発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	△	◎	○